

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

地域の災害に貢献できる児童生徒の心と実践力育成事業

山口県

【事業のポイント】

- 各地域で発生が想定される大規模自然災害に対応した避難訓練を、関係機関の協力のもと、児童生徒が幼児や高齢者を援助しながら実施し、周りの人や地域に貢献できる能力を育成する。
- 避難所での宿泊体験をしながら、自然災害の発生メカニズムや救急救命訓練等に取り組み、防災意識の高揚と災害発生時の対応能力の育成を図る。
- 学校・保護者・地域・防災部局等の連携体制の構築を図る。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

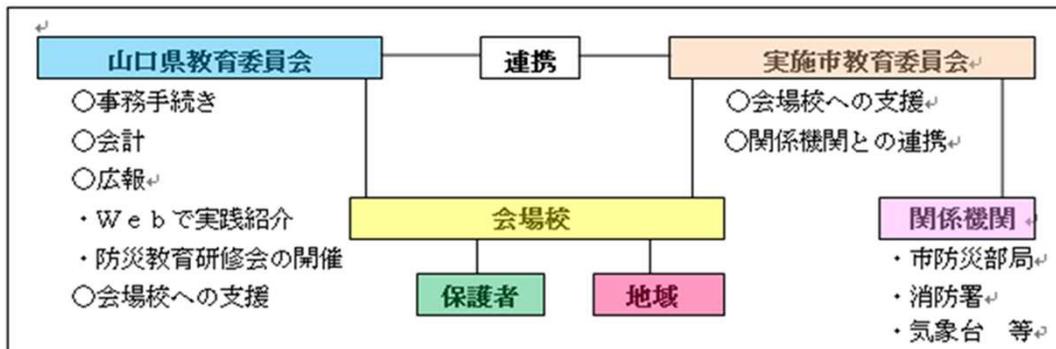
全国各地で毎年のように大規模自然災害が発生している中、本県においても過去6年間で4度の大規模土砂災害が発生している。また、今後、南海トラフ巨大地震やスーパー台風等の大規模自然災害の発生も想定され、自らの命を自ら守り抜き、安全な社会の構築のために自然災害に対して「正しく知る力・的確に判断できる力・主体的に行動できる力・他の人や社会の安全に貢献できる力」の育成が求められている。

(2) ねらい

本県で発生が想定される大規模災害(地震津波・台風高潮・土砂災害)に対応した防災訓練や避難所生活を想定した宿泊体験、炊き出し訓練、救急救命訓練等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2) 開催実績

月 日	内 容
5月20日	第1回長門市大規模災害対応訓練企画運営委員会
5月28日	第1回岩国市大規模災害対応訓練企画運営委員会
5月28日	第1回下関市大規模災害対応訓練企画運営委員会
6月14日	岩国市防災講演会(授業)打合せ
6月24日	第2回長門市大規模災害対応訓練企画運営委員会
6月25日	第2回岩国市大規模災害対応訓練企画運営委員会
6月30日	第2回下関市大規模災害対応訓練企画運営委員会
7月31日	第3回長門市大規模災害対応訓練企画運営委員会
8月2日~8月3日	岩国市大規模災害対応訓練
8月18日	第3回下関市大規模災害対応訓練企画運営委員会
8月26日~8月27日	下関市大規模災害対応訓練
9月29日	第4回長門市大規模災害対応訓練企画運営委員会
10月6日	長門市大規模災害対応訓練
11月11日	防災教育研修会

3. 防災キャンプ実施概要

岩国市大規模災害対応訓練

- 1 実施日時:平成26年8月2日(土)・3日(日)
- 2 実施場所:ほんごう保育園、本郷小学校、本郷中学校、本郷ふるさと交流館
- 3 参加者:ほんごう保育園園児8人、本郷小学校児童11人、本郷中学校生徒12人、教職員23人
保護者19人、本郷地区住民40人、岩国市教育委員会1人、山口県教育委員会1人
- 4 プログラム

【1日目】8月2日(土)

14:00	14:20	15:00	17:00	18:30	20:00	21:30
学校集合	避難訓練	【活動】 ○児童生徒が作成した「防災マップ」を地域に配付	夕食準備(備蓄食) 【研修Ⅰ】 非常時給水訓練	夕食	【研修Ⅱ】 ○災害救助について学ぶ	寝床作り 就寝

【2日目】8月3日(日)

6:30	7:30	8:00	9:00	11:00	11:20	11:30
起床	・身支度 ・洗面 ・健康観察 朝食準備(備蓄食)	朝食	会場片付け	【防災授業】 ○土砂災害に備える ・土砂災害とは? ・実験 ・ハザードマップ調べ	振り返り	閉会行事 保護者への引き渡し訓練

台風12号の影響による雨の中、中学生が小学生を列の前後にはさみ援助しながら、学校から300m離れた二次避難場所へ安全に避難をしました。



避難訓練終了後、ほんごう保育園の保護者へ園児の引き渡し訓練を行いました。



1学期に小・中学生が共同で作成した「防災マップ」を、自分が住んでいる地区に配付しました。



岩国市水道局の職員の方から非常用給水バッグの使用方法を指導してもらい、給水車から2日分の水6リットルを給水バッグに入れました。



就寝用のマットと段ボールの間仕切りを使い、寝床づくりをしました。夜間の緊急避難に備えて、枕元に非常用持出袋を置いて寝ました。



徳山工業高等専門学校の先生から、映像や土石流発生装置の観察等を通して土砂災害の発生メカニズムや日頃の備えについて学びました。



下関市大規模災害対応訓練

- 1 実施日時: 平成26年8月26日(火)・27日(水)
- 2 実施場所: 豊浦小学校、長府中学校体育館
- 3 参加者: 豊浦小学校児童26人、長府中学校生徒18人、県立長府高等学校6人、教職員29人
保護者4人、長府地区住民17人、下関市教育委員会5人、山口県教育委員会1人

【1日目】8月26日(火)

13:00	14:00	15:00	17:00	19:00	20:00	22:30
避難訓練	【防災授業】 ・長府地域の災害の歴史及び台風・高潮の発生メカニズムを学ぶ	【研修Ⅰ】 ○防災グッズ製作 ・ランタン ・雨ガッパ ・紙食器	【研修Ⅱ】 給水訓練 ----- 夕食準備(備蓄食)	夕食	【研修Ⅲ】 こども熟議	【研修Ⅳ】 寝床作り 就寝

【2日目】8月27日(水)

6:00	6:30	6:45	8:30	11:30	12:00
起床	・健康観察 ・後片付け ----- 朝食準備	ラジオ体操	朝食	【研修Ⅴ】 ○救護訓練 ①応急措置 ②心肺蘇生・AED ③ロープワーク	閉会行事 保護者への引き渡し訓練

防災アドバイザーの指導のもと、アルミ缶を利用したランタン、ゴミ袋を利用した雨ガッパ、新聞紙を利用した紙食器を製作しました。



下関市防災安全課の職員に、段ボールを使った生活スペースづくりを指導してもらい、みんなで協力して寝床を作りました。



東消防署署員に、心肺蘇生・AED訓練、応急措置・担架搬送訓練、ロープワークを指導してもらいました。



児童生徒アンケート結果

No	項目	とても	まあまあ	あまり
①	以前よりも災害に対する認識が深まりましたか	42人	3人	0人
②	「避難する」ことの大切さが分かりましたか	44人	1人	0人
③	「自分にできること」が見つかりましたか	38人	7人	0人
④	避難所での生活体験が、今後に活かされると思いますか	41人	4人	0人

長門市大規模災害対応訓練

- 1 実施日時:平成26年10月6日(月)
- 2 実施場所:三隅保育園、明倫・浅田小学校、三隅中学校、三隅公民館
- 3 参加者:三隅保育園園児85人、明倫・浅田小学校児童256人、三隅中学校生徒139人
教職員57人、三隅地区住民8人、三隅支所職員4人、長門市消防署職員2人
防災危機管理課職員2人、長門市教育委員会1人、山口県教育委員会1人
- 4 プログラム

9:30	10:00	10:10	13:45	15:15	15:50
避難訓練	講評	通常授業	【研修Ⅰ】 ○地震・津波発生のメカニズムを学ぶ ①実験・観察 ②講話・緊急地震速報訓練等	【研修Ⅱ】 ○備蓄食の試食 ・アルファ化米 ・カンパン、ビスケット ・保存水（5年）	

各学校・園の運動場に一次避難した後に、三隅ふれあいパークへ二次避難をしました。



下関地方気象台の職員から、地震・津波の発生メカニズムと対応について詳しく学びました。



アルファ化米(4種類)とカンパンに加えて、市から提供してもらったビスケットと保存水を試食しました。



自己評価

5：とてもよくあてはまる 4：ややあてはまる 3：どちらともいえない
2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない アンケート回収人数（84名）

番号	内 容	5	4	3	2	1
1	避難（ひなん）方法・避難する時に大切なことがわかった。	78	6	0	0	0
2	地震（じしん）や津波（つなみ）が起こるしくみがわかった。	67	17	0	0	0
3	備蓄食（びちくしょく）について知ることができた。	76	6	2	0	0
4	自分から積極的（せっきょくてき）に学習した。	49	25	10	0	0
5	今回の学習内容をこれからの生活に役だてようと思った。	78	5	1	0	0

4. 普及啓発の実施概要

活動名:防災教育研修会

【趣旨】東日本大震災の発生を受け、本県においても学校防災の一層の充実が求められており、避難所生活体験活動等、先進的な取組事例を県内全域に周知を図ることにより、防災教育の充実に資する。

1 日 時:平成26年11月11日(火)

2 場 所:山口県セミナーパーク

3 参加人数:148人

4 参加対象:県内幼・小・中・高の教職員、教育委員会指導主事

5 日 程

9:30 開会行事

9:40 所管説明

9:50 防災アドバイザーによる学校巡回報告

10:30 岩国市大規模災害対応訓練実践発表

11:00 下関市大規模災害対応訓練実践発表

11:30 学校危機対応演習(風水害・土砂災害)

13:00 山口大学副学長三浦房紀教授による講演「災害多発時代を迎えての防災教育を考える」

14:50 分科会(幼・小学校、中学校、高等学校に分かれ防災教育について協議)

16:00 開会行事

5. 成果と課題

(1) 事業成果

〈大規模災害対応訓練〉

○ 大規模災害時の避難や避難所運営について、学校・保護者・地域・関係機関等(消防、警察、市町防災部局等)との連携体制や協力体制の強化・充実が図られた。

○ 段ボールの寝床を使った体育館での宿泊体験や備蓄食の体験、心肺蘇生訓練、AED訓練、防災用品の製作等により、避難所生活や防災に関する知識・技能の習得及び意識の高揚を図るとともに、避難所生活の大変さや厳しさを体験することができた。

○ 防災の専門家である徳山工業高等専門学校准教授や下関地方気象台職員による防災授業により、自然災害(地震・津波、土台風・高潮、砂災害)に対する知識や備え、対応方法等をより詳しく学ぶことができた。

〈防災教育研修会〉

○ 防災アドバイザーによる防災管理体制や避難訓練の課題の報告、先進的な防災教育の実践発表、学校危機対応演習(風水害・土砂災害)、本県で発生が想定される大規模災害(地震・津波、台風・高潮、土砂災害)についての専門家による講話等、様々な視点から防災教育の研修ができた。

《大規模災害対応訓練参加者の意見》

◇ 防災マップをつくる中で、避難場所、避難場所へ移動する時に使う道、避難場所に着くために危険な場所はどこか・何か所くらいあるのかということ、あらためて確認することができました。(小学生)

◇ 災害時は、いつでも出られるように準備をしておき、安全に避難することが大切ということが分かりました。(小学生)

◇ 学校から避難するとき大雨だったので緊張しました。班ごとに危険地区マップを配布したあと、給水訓練がありました。6Lの水を給水バッグに入れました。目に見える量なので改めて水の大切さを感じました。東日本大震災等で実際に救援活動をされた消防署員の方のお話は、心の中の映像やコメントがあって涙が出そうになりました。2日間、とてもよい体験になりました。(中学生)

◇ 2日間の体験を通して、みんなで協力することや物の大切さがよく分かりました。また、災害発生時に自分たちにできることなどを協議することにより、防災について考えるとてもよい機会となりました。本当に災害があった時は、今回の経験を生かして、みんなで助け合いたいです。(高校生)

◇ 災害に関することに興味がわき、意識が変わりました。家族で住んでいる地域の様子を知り、災害の時の待ち合わせ場所や避難する時のグッズを家族で作ることにしました。(保護者)

《防災教育研修会参加者の意見》

◇ 様々な場面を想定した実効性のある防災訓練の在り方、地域の諸団体と連携した体験学習の在り方について、勤務校での取組を見直すよい機会となりました。

◇ 『間違いなく西日本にも巨大地震はやってくる。まずはできることから始める。』といったお言葉を胸に、児童とともに防災教育に取り組みます。

◇ 生徒が学校にいる時間は意外にも短く、生徒や保護者の防災意識を高めることも今後の課題と感じました。

(2) 事業運営上の課題・留意点

〈大規模災害対応訓練〉

○ 学校の危機管理は主に管理職が担当という認識であるが、危機対応は全教職員(組織)で対応することが必要であり、全教職員への危機管理についての意識付けや災害に対する危機対応能力の更なる向上が重要である。

○ 自然災害が比較的少ないと言われてきた本県においても、ここ6年間で4度もの土砂災害が発生しており、また、南海トラフの巨大地震・津波災害や台風・高潮災害等の大規模自然災害も想定されている。このような自然災害から自らの命を守ることができるよう、様々な災害を想定した保護者・地域・防災部局等と連携した実践的な訓練を実施することが重要である。

○ 学校は避難所の運営に関しては認識が低い。避難所運営に関する学校の役割等についての教職員研修を行うとともに、市町の防災担当部局や地域の防災関係機関等と連携を充実していく必要がある。

〈防災教育研修会〉

○ 防災教育は防災担当者だけでなく、全教職員で取り組んでいく必要があり、今後、より多くの教職員が研修会に参加し、自然災害に対する知識の習得、危機意識の高揚や災害発生時における危機対応力の向上等を図る必要がある。

(3) その他

平成27年度も防災キャンプの実施を予定している。来年度は、本県で発生が想定される大規模災害に対応する防災キャンプを、コミュニティ・スクール等が主体となって取り組むモデル事業を実施し、県内に啓発普及したい。

6. 団体プロフィール

山口県教育委員会 学校安全・体育課

TEL:083-933-4673

岩国市教育委員会 学校教育課

TEL:0827-29-5203

下関市教育委員会 学校安全課

TEL:083-231-1344

長門市教育委員会 学校教育課

